

2016年度ユネスコスクール活動実践報告

テーマ “平和をともに”

北海道キリスト教学園 湖畔幼稚園
園長 衛藤満彦 担当 安田みゆき

1、本園のESDの特徴

ユネスコスクール活動の3つの大きなテーマに基づき、年度初めにカリキュラムを立てて取り組んでいる。活動を通して、本活動が日々の保育の中に深く浸透し、教師一人ひとりが自覚をもって取り組むことができるようになったことは評価出来ることである。また、活動の各テーマが密接に関連し合って、特に、地域交流の分野で近隣との信頼関係等が深められたことは、今年度の成果としてあげられる。更により良い取り組みを模索し充足感のある取り組みを目指す。

2、活動計画

下記の3分野についての活動を通年取り組む。月ごとにはそれらの中から、特にテーマを絞って取り組み、『ユネスコタイム』と位置づけて全園児が集まり、テーマを周知して、その月の活動を促している。

《環境教育》

- ・収集活動 (エコキャップ・リングプル・古切手・未使用ハガキ・各廃品)
- ・美化活動 (お花系の活動及び園周辺・町内会のプランター整備、ゴミ拾いなど)
- ・栽培活動 (各学年ごとに野菜や花などを栽培)
- ・廃品の再利用活動 (工作活動など)
- ・飼育活動 (各保育室での飼育活動及び鮭の稚魚の里親としての飼育活動)
- ・木育活動 (地域の木材や加工までの行程を知り、木材に親しむ活動)

《国際理解》

- ・英語遊び (アメリカ人英語講師による英語遊び)
- ・日本文化理解活動 (日本の伝統文化に親しむ)

《地域交流》

- ・介護老人保健施設との交流活動 (ふれあいデー、ふれあいタイム)
- ・地域住民、事業所との交流活動 (収穫物プレゼントや行事案内、作品展など)
- ・挨拶運動 (町内会の方々との交流)



環境教育～廃品作った品物で
お店屋さんごっこを楽しむ



国際理解～日本の伝統文化
(節分) で遊ぶ



地域交流～介護老人保健施設
の方々と玉入れ

3、活動事例

・“木とともにだちになろう木育プロジェクト” 活動

環境教育の分野における活動の広がり求めた本活動は、近隣事業所の木育マイスターさんの協力を得て行われた。年長児の製材工場の見学や全園児の木のマグネットづくりでは、山から切り出された木材の加工の様子を見たり、実際に手にとって木材に触れて活動した。年長児が工場から持ち帰った様々な木材は園内で展示され、日頃直接触ることができるコーナーとなった。また、間伐材のお話を聞いて、その活用大切さや木への関心を深める事ができた。

それらの活動の上で、『木とともにだちになろう木育プロジェクト活動』が親子で楽しむ形で行われた。この取り組みでは釧路近郊の間伐材に触れながら、様々な製作を楽しむことができ、木のぬくもりを通じて優しい気持ちが育つ取り組みとなった。ESD アシストプロジェクト助成金や市のなどの助成を受けての活動であったことで、より多くの人々の協力を得ての活動となり、当初の目的であった環境に関する学びに加えて、人とのつながりを深めることができた。



製材工場を見学



全園児での
木のマグネットづくり



木育プロジェクトの
ドミノ倒し

4、成果と課題

今年度はESD アシストプロジェクト助成金を受け、環境教育における木育活動を新たに取り組むことができたことは、大きな成果である。地元釧路の産業について知る機会となり、地域の木材やその加工の行程、木の心地良さやその大切さについて学ぶことができた。また、地域のつながりも広がり、多くの方々の理解、協力の中で活動することができた。

また、様々な方面において、教職員がユネスコスクールとしての意識を高く持って丁寧に活動したことで、子どもたちの中にも関心が高まり、各テーマにおける活動の広がりが見られた。このことは園の保育テーマ“平和をともに”を深めるものであった。今後の活動においても、新たな取り組みを模索する。